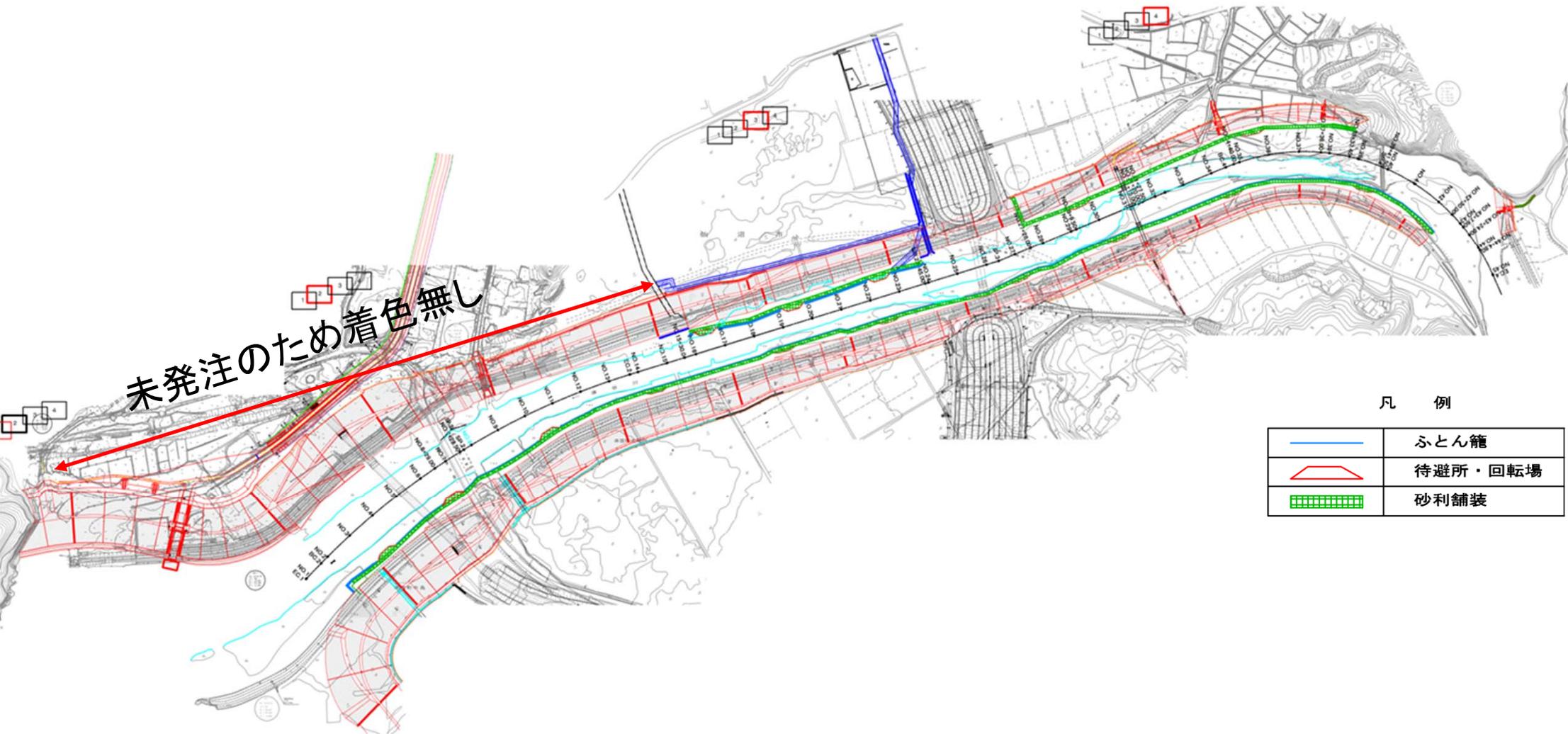


# 資料－4 工事施工時の環境配慮について (傍聴用)

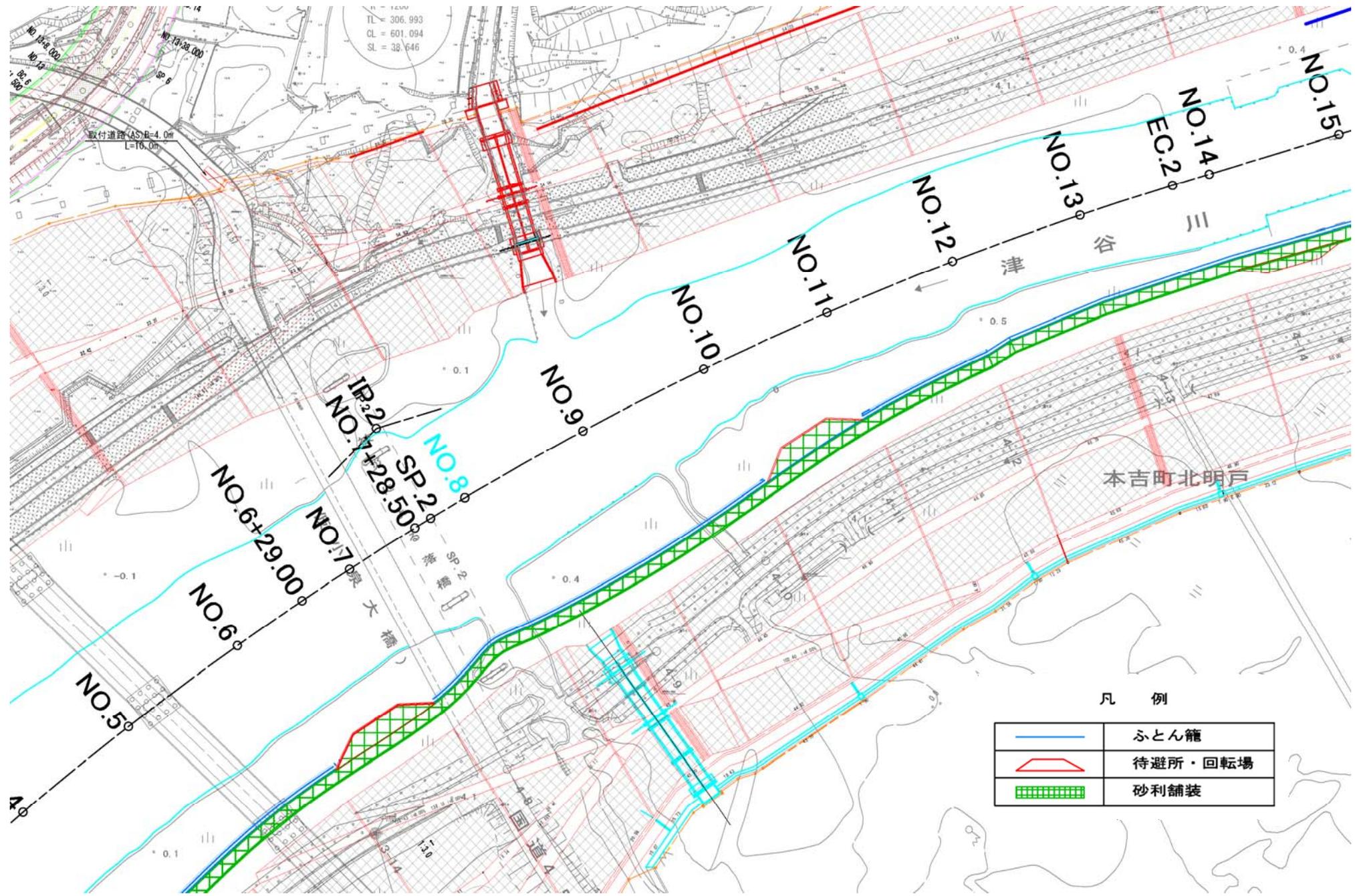
---

## 仮設道路全体図

- 高水敷に仮設道路を設置(利用を考慮し, 撤去しない)
- 道路の設置に伴い, 希少種の移植を実施する



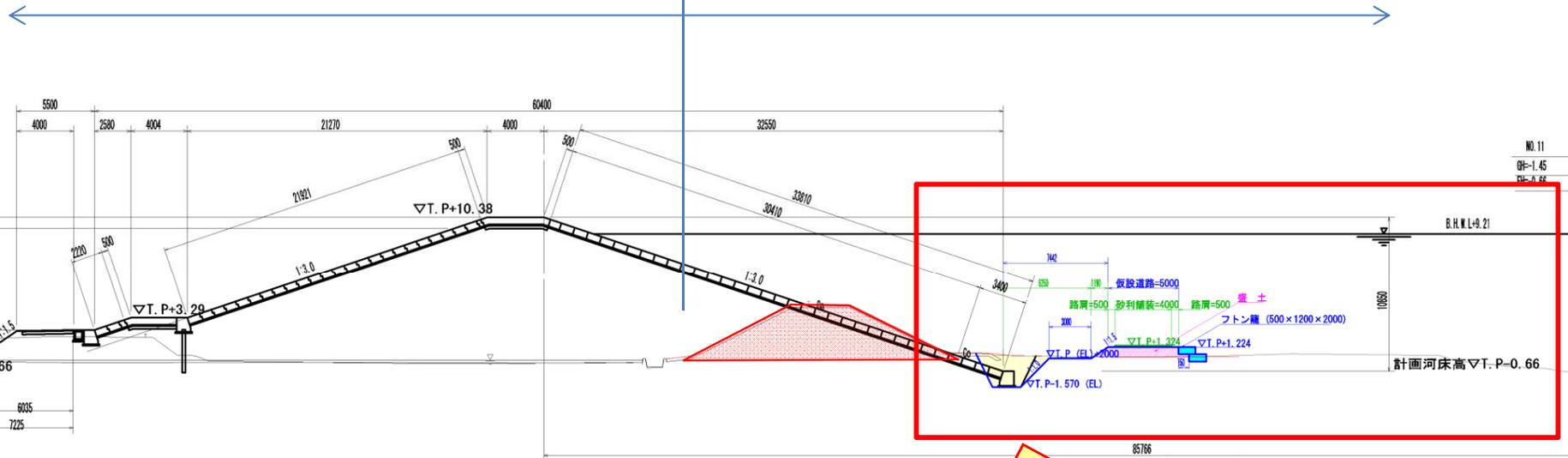
# 仮設道路拡大図



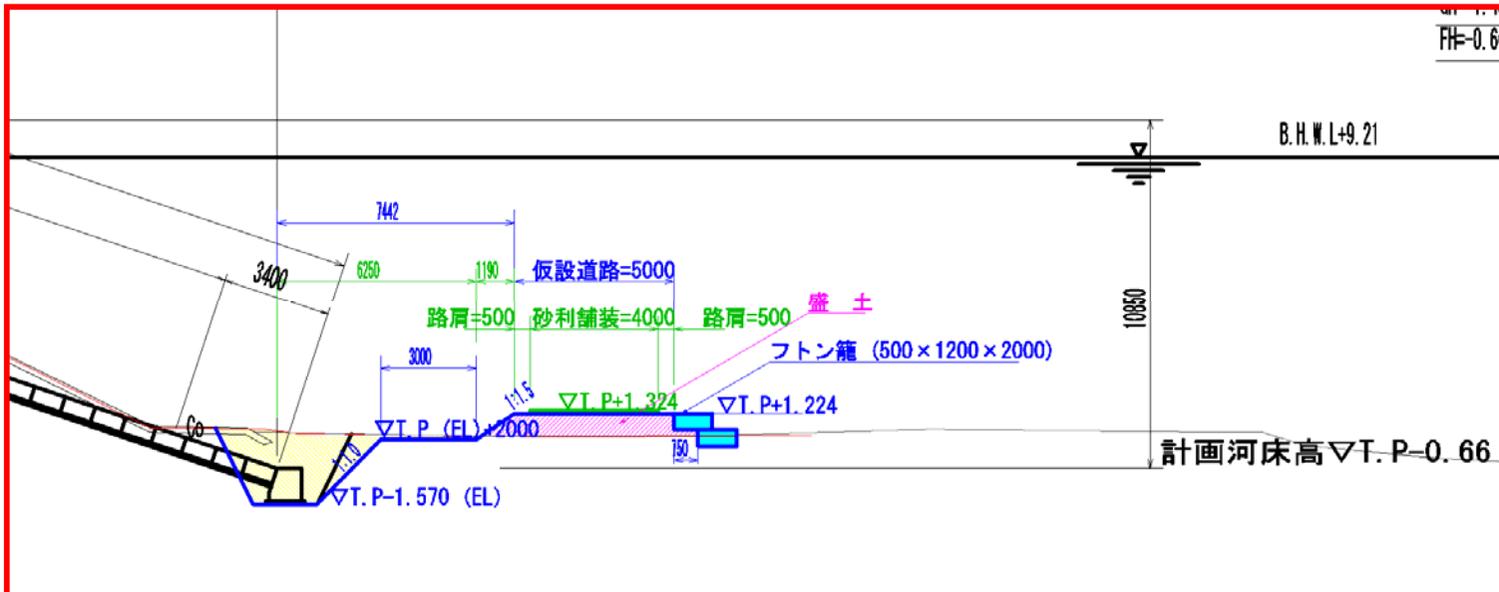
# 仮設道路断面図

水田(希少種少ない)

堤防・河道内(希少種多い)



河川中心線までの距離



## 1. はじめに

2015年2月18日～19日に実施した事前調査において、アワコガネギク（環境省レッドリスト：NT）、ミクリsp.（環境省レッドリスト：NT，宮城県レッドリスト：NT）が確認された。確認された場所は、平成27年度施工区域付近であったため、施工区域外への移植を実施する。

## 2. 生息地点

アワコガネギクは10個体，ミクリは3群落確認した。アワコガネギクは乾燥した場所、ミクリは河川に近い場所で湿っている場所で確認されている。以下に生育場所の平面図および断面図を示す。

### 3. 保全対策

津谷川周辺に生育するアワコガネギク群落、ミクリ群落の維持のための対応策を実施する。

具体的な方法としては、施工前にアワコガネギク群落およびミクリ群落を施工区域に影響のない場所へ移植を行う。移植個所は、施工区域の上流側にアワコガネギクおよびミクリの生育に適している場所があり、そこに移植を実施する。

## (1) 移植先

移植先は各植物の自生環境に応じた場所とし、土壌 pH を確認の上選定した。

- ① ミクリは浅く水のかぶる湿地帯とする。
- ② アワコガネギクは高水敷の地下水の影響の少ないやや乾燥している場所とする。

## (2) 移植方法

対象となる植物の根茎の展開状況確認のうえ、現状の土付の状態で移植する。

- ① ミクリは根茎中心部分から両側の15cm外周範囲を、深さ20cm根茎に沿い掘り起こし移植する。
- ② アワコガネギクは新芽展開端部25cm外周範囲を、深さ30cmまで掘りおこし移植する。
- ③ 移植する植物の識別トレーサビリティについて。
  - ・移植先の位置情報をGPSで管理する。
  - ・移植した植物の周り四方に木杭を打ち、現地で分かるように表示・養生する。
- ④ 移植作業はビオトープ施工管理士の資格を持つ者1名が作業を指揮し、普通作業員4名で掘り上げ作業・移動作業・植え込み作業を行う。

ミクリ掘取箇所			ミクリ移植先	
番号	位置	範囲	位置	範囲
No.2	No.29+40	1.5m × 1.5m		
No.5	No.32+40	1.3m × 1.5m	No.43+0	19m × 0.5 ~ 2.0m
No.5'	No.33+15	1.4m × 0.8m		
No.5''	No.33+45	1.0m × 0.5m		

### (3) 移植結果

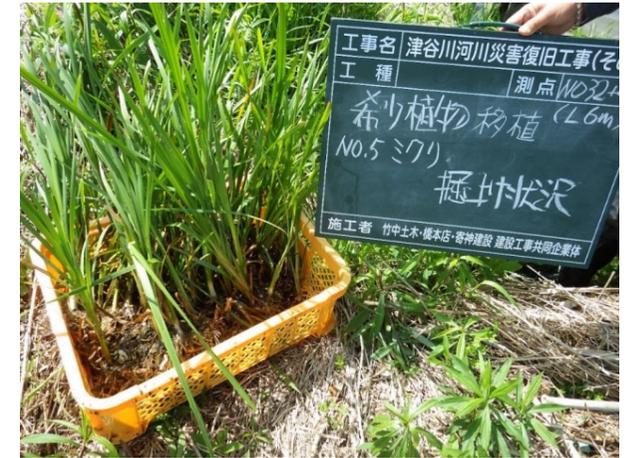
- ・ 5月20日にミクリを施工区域外の左岸湿地帯に移植した。
- ・ 移植はビオトープ管理士指揮の下、実施した。
- ・ アワコガネギクは、事前調査で確認された以外の地点でも多数確認されたため、移植方法等に関して再考することとした。



ミクリ移植前状況



ミクリ掘り取り作業



ミクリ掘り取り状況



ミクリ移植完了

ミクリ移植完了

ミクリ移植完了

	工種	平成26年度	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
環境調査		事前調査（冬期）	定期調査（年4回）			モニタリング			モニタリング		
津谷川右岸 上流	工事用道路設置		★								
	築堤盛土工				★						
	樋門工										
	被覆工										
津谷川右岸 下流	工事用道路設置			★							
	湿地工(検討中)					★					
	築堤盛土工				★						
	樋門工										
	被覆工										
中島海岸 津谷川左岸	工事用道路設置		★								
	地盤改良工										
	築堤盛土工			★							
	樋門工										
	被覆工										

事前調査，定期調査の結果を踏まえ，希少種については施工開始前に移植等を実施  
 ★：施工前に移植を実施（ただし，移植時期は種類により時期を選定）

## 移植や保護に対する対処(案)について

### 【鳥類】

- 調査では飛来のみであり営巣は確認されていない。
- 対策としては、河川水を水飲み場としているコクガンに配慮するため、濁水対策に配慮する。

### 【魚類】

- 工事については、震災前の高水敷(陸上)のみであり、魚類に影響する工事ではない。
- 対策としては、濁水対策に配慮することとし、SS, PHを定期的に調査する。

### 【底生生物】

- 工事により確認された場合は、同等の生息環境を有する施工区域外へ移動する。

### 【植生】

- 株単位のものとは同等の生息環境を有する施工区域外へ移植することを基本とする。
- 群落を形成し、全てを移植することが困難な場合は、株単位で移植することを基本としたい。